



研究者名※	浅見美穂 ASAMI Miho	学位※	博士(学術)
所属※	家政学部通信教育課程 生活芸術学科(住居)	職名※	特任教授
連絡先	asamim@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/read0134008		
研究分野※	生活科学(住生活) 建築学(社会システム)		
研究キーワード※	住居計画、住居管理、住教育・住情報		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・住居管理に関わる職能と住居管理モデルの提案(科学研究費・基盤C・研究代表者(2021~2023年)) ・居住者の生活と地域防災の視点からみた住宅の維持管理に関する研究(科学研究費・基盤C・研究代表者(2015~2017年)) 		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・豊島区建築審査会 委員(2021年~) ・公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会 安心リフォーム推進部会 部会長(2019年~) ・一般社団法人 神奈川県建築士会 既存住宅状況調査技術者講習 講師(2018年~) ・横浜市固定資産評価審査委員会 委員(2015年~) ・横浜市木造住宅耐震診断士派遣事業・横浜市木造住宅耐震診断士(1995年~) 		
受賞歴			

研究領域	住居管理	
研究テーマ※	住居管理に関わる職能と住居管理モデルの提案	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 住宅ストックの耐震基準や省エネルギー基準未達成や既存住宅流通の横ばい状況は、住生活基本計画においても課題の一つとされている。近年の地域社会で顕在化している地域防災、景観や町並み保存、管理不全や空き家問題などを勘案すると、都市部の住宅地の中古市場環境整備と、住宅の維持管理システムを確立することは急務な課題である。戸建て住宅の居住者の維持管理の実態と、居住者のサポート役として住居管理に関わる職能に求められる役割を整理し、良質な住宅ストックが住宅市場に好循環する、住居管理モデルを提案する。</p> <p>【応用例、研究の展望】 近年、既存住宅流通・リフォーム市場の活性化に向けた施策として、安心R住宅制度やリフォーム事業者団体登録制度、既存住宅状況調査技術者登録制度などが開始されている。それらの施策により専門性の高い人材が居住者に関与でき、自然災害の備えや住宅の管理適正化に繋がっているのかの検証が必要である。住宅の所有者とホームドクター的関係性の構築ができていない建築士や施工業者の取り組み事例や、関係主体が連携して既存住宅の商品化などを試みている事例を選定し、それぞれの方法論や住居管理が適性に好循環していくための職能の役割と関係性を考察する。それらの結果から社会モデルとして機能できるシステムを提案する。</p> <p>【研究方法の特色】 住居管理に関わる職能と、良質な住宅が適性に循環する住居管理モデルを提案し、リフォームによる適切な維持管理の促進や、住宅ストックビジネスの活性化、多角化する住生活産業に対応した担い手の確保と発展に貢献する。住宅管理の主体である住宅の居住者(所有者)の視点に立ち、戸建て住宅の居住者が行うべき維持管理と居住者をサポートし、住居の維持管理に関わる職能の役割を確立し、それらの関係性から実践できる住居管理モデルを提案するところに特色がある。</p>	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・浅見美穂,共著「工事履歴からみる住まいのリフォームに関する研究－横浜市における木造戸建て住宅のケーススタディを通して その2－」、『日本建築学会計画系論文集』,第78巻,第687号,pp.1023-1030,2013.5 ・浅見美穂,共著「修繕費用と耐震性能からみた住宅の維持管理に関する調査－横浜市の木造戸建て住宅のケーススタディを通して－」、『日本建築学会技術報告集』,第25巻,第59号,pp.423-428,2019.2. ・浅見美穂,共著「戸建て住宅の住居管理における居住者から求められる職能－居住者アンケート調査結果による考察－」、『日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1』,p.223-224,2021.9 	
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・戸建て住宅の構法別の維持管理ガイドラインの開発 ・行政の外郭団体やNPO法人などが行う、既存住宅の管理サービスの商品化との連携が期待できる。 	